

有明の丘令和2年度第1期研修 感染症リスクに応じた研修実施方法

資料1-2

| | 方法 | 論点 |
|-----------------------------------|--|---|
| A案 ↑ 高 感染症リスク ↓ 低 | オンライン（ITでの配信）のみ <ul style="list-style-type: none"> 講師の講演を撮影し、LMSで配信する。 新規の撮影が難しい講師は、令和元年度の録画データを使用する等柔軟に対応する。 | <ul style="list-style-type: none"> リアルタイム配信のみにするか、オンデマンド配信も可能にするか。→各先生のご希望に沿う形で選択制か。 LMS機能の確認（チャット等双方向、自治体職員の受信に問題がないか） 中期的にはオンラインでできるような演習の検討が課題。 |
| B案 | 折衷案（有明会場＋オンライン） <ul style="list-style-type: none"> 参加人数を30名程度（約半数）に減らすことで受講者間の間隔を2m程度確保し、有明の丘会場で研修を行う。 その録画データをほぼ無加工でオンライン（オンデマンド）配信する。 密になりがちな演習は実施しない。 | <ul style="list-style-type: none"> 会場に来ることができない研修予定者については、オンラインで講義動画を見ることになるため、上記と同様の留意点。 |
| C案 | 有明の丘会場のみ（例年どおり） <ul style="list-style-type: none"> 有明の丘会場を使い、例年どおり実施する。 マスク着用、手洗い等感染症対策の徹底。 密になりがちな演習は実施しない。 | <ul style="list-style-type: none"> 万ークラスターが発生した場合の対応。 |

各コーディネーターの有明Ⅰ期の研修方法についてのご意見（概要）

＜全体の方向性＞

多くの委員がA案を支持された。A案をベースとして準備し、状況が許せば、B案、C案にスイッチすることにはどうか。

リアルタイム型へのご意見

- ・牛山委員：大人数（100名以上）だと制御が難しい。
- ・丸谷委員：受講者一人一人の機材トラブル等への対応が困難。
- ・中林委員：講師とは別にTV会議を管理するディレクターが必要。
- ・田村委員：講師による説明とパワポ動画などを組み合わせるやり方もある。
- ・牛山委員等：ツールの使い方を受講生に事前にレクする必要。
- ・牛山委員：講師も様々であり、慣れの差があるため、なるべく複雑なことはしないほうがよいのではないか。
- ・井ノ口委員：オンラインのほうが生徒の表情がよくわかり、いい面もある。
- ・丸谷委員等：オンラインだと、意外に生徒から質問が多く来るなど、いい面もある。

オンデマンド型へのご意見

- ・岩田委員等：講義動画の配信と講義資料の配布の2通りがある。
- ・黒田委員：従来の70分講義をそのまま動画にすると長時間すぎて受講者に負担。10-15分ごとに課題を与える等の工夫が必要。
- ・井ノ口委員：10分ごとに話題を変える等の工夫が必要。
- ・丸谷委員：講義はオンデマンド型で行い、質疑応答を含む意見交換は実施日時を決めた上でリアルタイム型での開催にしてはどうか。

演習へのご意見

- ・牛山委員：従来型の演習はできないので、オンラインでできることを検討。
- ・井ノ口委員：各グループの議論状況が分かりにくい。講師による議論の補助が困難。
- ・丸谷委員：あるテーマを付与してそれぞれ議論してもらおうという形もあり。
- ・田村委員：自己学習ができる形式はどうか。
- ・中林委員：チェックリスト方式で自己点検できるやり方でもいい。
- ・牛山委員等：自己学習のための資料として、ワークのやり方や説明資料、振り返り資料を配布するやり方もある。

- ・岩田委員：オンライン化が難しい演習については取りやめ、その時間を別の単元に回すことも考えられる。
- ・黒田委員：TV会議で演習は50人が限度ではないか。

受講環境へのご意見

- ・牛山委員等：リアルタイム型のためのTV会議の導入は自治体のセキュリティ上困難。
- ・田村委員等：個人端末の利用や自宅からの受講の可能性もあり。
- ・丸谷委員等：事務局から受講者にTV会議用のタブレット等の貸出を検討しては如何。

著作権についてのご意見

- ・田村委員等：講義資料の著作権が問題になるため、利用範囲等を調べる必要。
- ・井ノ口委員：二次利用防止のため録画・録音等を禁止する誓約書を書いてもらう必要。

その他オンラインについてのご意見

- ・井ノ口委員：教育効果の視点から講義の評価方法（テスト等）を見直す必要。
- ・井ノ口委員：受講証明書をどうするか。発行するならば、正確な受講管理が必要。
- ・黒田委員：交流会等として、TV会議等で交流できる場を設けてはどうか。

集合型へのご意見

- ・田村委員：現時点では対面型の集合研修は難しいと思う。
- ・中村委員：有明会場でやるなら受講者に問診票の記載や体温チェックが必要。

ご意見を踏まえての有明の丘オンライン研修準備の方向性（案）

- ・受講用タブレットの貸出（上限60台程度を想定）
- ・座学については、原則として、オンデマンド型での配信とし、動画をLMSに掲載。質疑応答はLMSのアンケート機能で受付、LMSを通じて回答。動画撮影は、講師の指定場所で録画。事務局が補助。
- ・視聴しやすいよう、全体時間や構成を工夫。
- ・演習については、講師と相談しながら、それぞれに適した形（自己学習促進、課題付与でのグループワーク等）を選択。
- ・受講者は、二次利用防止の誓約書を事前提出。
- ・座学及び演習をすべて受講した受講者に修了証を発行。
- ・TV会議ツールで任意参加の交流会の場を設ける。